

現場に 吹く風

from Zambia

ザンビア

徳島から世界各国へ飛び立ち
国際協力の現場で奮闘している人たちがいる。
毎月、それぞれの現場から生の声を伝える。



予防啓発劇の様子。ボランティアさんによる啓発劇や歌を通して、安全な妊娠／出産に関するメッセージを地域住民へ伝えます。



アイビー助産師(左)は、2009年にTICOが建設支援した診療所に開所当初から勤務しています。昨春秋、母子保健研修のために来日した際には、徳島の文化にも触れてもらいました。(右は同僚の瀬戸口業務調整員)。



診療所とお産を待つ家。



生まれたばかりの赤ちゃん。



村々を治めている酋長と。地域の権力者たちと関係性を築いていくのも重要な仕事です。

「お腹が痛いー!!」夜も深まりつつあるアフリカ南部の国、ザンビアの農村部。月明かりの下、お父さんとお母さん、5人の子どもの家族7人で夕飯を食べていたときのこと。妊娠9カ月のお母さんの陣痛が始まったようです。「診療所の助産師アイビーに『今回は必ず診療所で産むように』と言われていたのだけども」。歩いて3時間もかかる診療所。陣痛の始まっている妊婦が歩くには道が整備されておらず、また車を借りるだけのお金の余裕はありません。

「みなさん、こんにちは」。アフリカの農村地域では、いざ陣痛が来ても病院でのお産に間に合わないお母さんたちが数多くいます。仕方なく自宅などの不衛生な環境で出産し、緊急時の対応が遅れ命を落としてしまうことも実際に起っています。そのような状況を改善するため、JICA草の根技術協力事業(草の根パートナー型)として、出産の予定日前から待機できる「お産を待つ家」を建設、また村で安全な妊娠／出産を支援するボランティアさんを養成し、お母さんたちに正しい知識を伝え「安全なお産」を可能にすることを目的にした保健プロジェクトを実施してきました。様々な要因が絡み合っており一筋縄ではいきませんが、お母さんと子どもの命が守られる、そんな地域を目指して村のボランティアさんと共に「安全なお産」の啓発活動に取り組んでいます。

(文田村幸根さん)

ザンビアで「安全なお産」を伝える

NPO 法人 TICO 長期専門家 田村幸根さん(30歳)

派遣国…ザンビア 職種…保健医療専門家

この業務に携わるまで…大学卒業後、都内病院にて看護師勤務、その後離島での行政保健師を経験し、長崎大学熱帯医学研究所研修課程を修了。2012年7月より徳島県吉野川市に拠点を置くNPO 法人TICO(Tokushima International COoperation)の長期専門家としてザンビアへ赴任。

楽しみなこと…仕事の終わりに村のボランティアさんと一緒に地域に伝わる「チブワントウ」というウモロコシと植物の根っこから作った発酵飲料を飲みながら語らう時間。

平成26年度JICAボランティア 春募集期間(4/1~5/12)

募集説明会
(青年海外協力隊・シニアボランティア)&
無料映画上映会「スタンリーのお弁当箱」
日時:4/19(土)13:30~

場所:徳島県国際交流協会(クレメント6階)
JICAボランティアへの応募に興味はあるけど自分に何ができるか悩んでいる方、JICAボランティアって何?とお思いの方、帰国した隊員の話を知りたい方、映画だけ楽しみたい方も大歓迎!



JICAボランティア事業(青年海外協力隊・シニア海外ボランティア)は、日本政府の予算により、独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する事業。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持つ人を募集し、選考・訓練を経て派遣している。募集は年に春・秋の2回。
問い合わせ先:JICA徳島デスク(電話:088-656-3303)またはJICAホームページ: <http://www.jica.go.jp/volunteer>